

2024年1月22日（月）18：30～21：00（Zoom）

〈2日目〉

「韓国における教育演劇の取り組みと 大学院における専門人材の養成について」



2日目 1月22日（月）18:30-21:00

「韓国における教育演劇の取り組みと
大学院における専門人材の養成について」

キム・ビョンジュ（김병주）氏

123

○**柏木** 国際演劇交流セミナー韓国特集「韓国の文化政策、韓国の芸術教育を知ろうⅡ」を始めたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。本日進行いたします、日本演出者協会国際部の柏木俊彦と申します。

2日目は、〈韓国における教育演劇の取り組み〉と、〈大学院における専門人材の養成〉について、キム・ビョンジュさんからご案内いただくことになっております。

本日の大まかなスケジュールですが、大きく2つとなります。

(1) 講師によるレクチャー

- ①最初は「キム・ビョンジュさんの活動の紹介」
- ②次に「大学における専門人材の養成について」

(2) 参加者の方との質疑応答の時間

では、講師のキム・ビョンジュさん、ブッタカムニダ！（よろしくお願ひします）

画面オンをお願いします。通訳はイ・ジュンヒョンさんです。

○イ イ・ジュンヒョンと申します。よろしくお願いします。

■ 教育演劇との出会い

○キム（日本語で）“こんばんは。私はキム・ビョンジュです。”

お会いできて嬉しいです。本日よりよろしくお願いします。ここにいらっしゃるのは、日本の演出者協会の皆さまだと理解しております。この時間をいただいととても光栄です。そして羨ましいです。なぜかという、私自身も演出家を目指したときがありましたので。私は今現在、ソウル教育大学の教授を務めておりまして、同時にPRAXISという団体の芸術教育監督を務めております。

- ・ New York University, Educational Theatre (MA) ,1997
- ・ New York University, Educational Theatre (Ph.D) ,2005
- ・ Creative Arts Team (CAT) ,N.Y.,NY, 1999 ~ 2004
- TIE (Theatre in Education) 基盤の教育演劇機関
- 「Actor-Teacher」俳優であると同時に教師の役割を遂行
- ・ 2005年に帰国し、「PRAXIS」を設立

私はニューヨーク大学のエデュケーショナル・シアターというところで修士課程を経て、同大学で2005年に博士課程を修了しました。

私が勉強していた当時、クリエイティブ・アーツ・チーム（CAT）というチームがありました。CATはニューヨークで一番古くから続いているシアター・イン・エデュケーション（TIE）というエデュケーション基盤の教育演劇機関となります。

※注 CAT (Creative Arts Team) 1974年に設立。社会問題や学術問題に積極的に取り組み、創造性を育み、世界と批判的に関わるための触媒として演劇とインタラクティブドラマを使用しています。

私はそこでアクターティーチャー、今のティーチングアクターという、俳優と同時に教師の役割を遂行していました。この用語にまだ慣れていない方もいらっしゃるかもしれませんが、俳優を教える教師、あるいは教師を教える俳優ではなく、＜俳優であると同時に教師の役割、両方を遂行する＞ということを意味します。

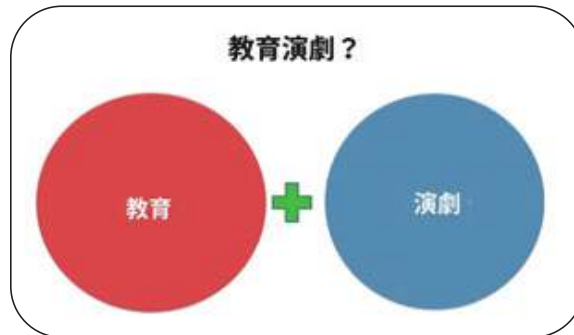
そして、2005年に博士課程を修了して韓国に帰国し、その後《PRAXIS》という教育演劇の団体を設立しました。

※注 PRAXIS (プラクシス) 英語のpractice (プラクティス) の元となる語で、「実践」や「練習」といった意味。

• 교육연극 教育演劇

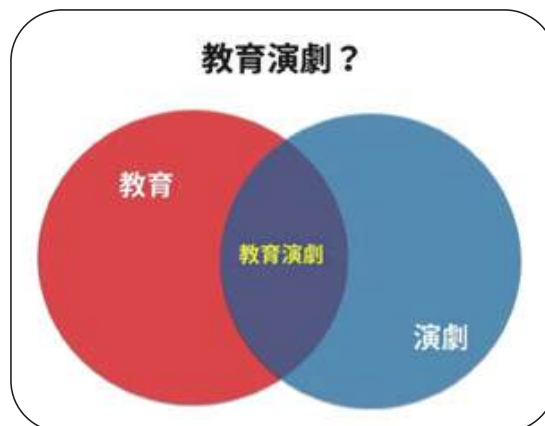
• 예술교육 藝術教育

私は今、大きい枠の中で1つ「教育演劇」という枠と、もう1つ「芸術教育」という2つを主に活動しております。

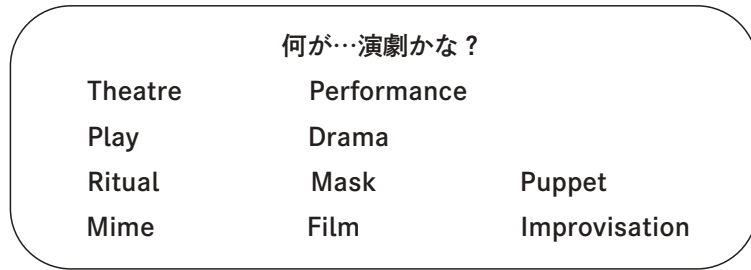


125

韓国では一般的に概念を紹介することが多いので、教育演劇についても同じように簡単にご説明させていただきますと、教育というとても巨大で広範囲な概念と、演劇というとても広くて巨大な概念を2つ合わせたということが基本的なポイントとなります。

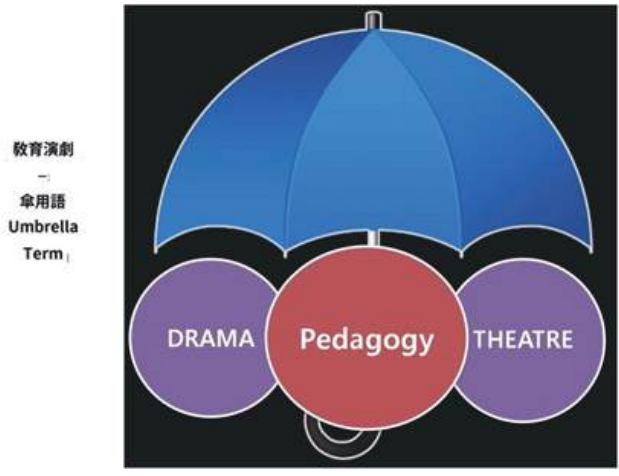


それらを合わせることで、「教育」と「演劇」の接点となる、交差する部分が「教育演劇」という新しい分野となっています。



「何が教育演劇か」という定義を一言で申し上げるのは、かなり難しい問題だと思います。

「演劇」に関して、日本語には、他のいろんな単語があるかもしれませんが、韓国では「演劇」(연극 ヨングク)という1つの単語しか使っておりません。しかし海外の事例を見てみると、例えば英語の表現を借りますと、上の図のさまざまな単語がすべて演劇に関わっている、あるいは演劇自体を指すことになります。



従って、私が韓国で教育演劇を紹介するときは、それぞれの単語とか概念というのを、大きい傘（アンブレラ）の下にあるという形で紹介したりします。ここで一般的な演劇との一番大きな違いを表すのは、真ん中のPedagogy（教育観、教育哲学、教授法）という要素がメインであることになります。このPedagogyという箇所を基盤にして、DRAMAという箇所に派生する、あるいはTHEATREという箇所に派生するということで、教育演劇という大きな傘の中で概念を成立することができるのではないかと考えております。

※注 DramaとTheatre Dramaはパフォーマンスの内容とテーマを強調し、Theatreは

パフォーマンスの制作とプレゼンテーションに重点を置いています。Dramaは演劇や脚本などの書かれた作品を指し、Theatreは主にライブパフォーマンスに関連しています。

Pedagogyという概念を、私が韓国の漢字で整理すると教育観、教育哲学という漢字になります。言い換えるとどのような結果の教育を行うのかと説明することも可能です。

アンブレラの図の下の概念を、Pedagogyという特徴を基盤にした場合、左側の方がドラマの性質を持っているもの、右の方がシアターの性質を持っているものに分類され

教育演劇の特徴

- 学生/参加者中心のアプローチが重要 (participant-centered)
- 結果でなく、プロセス中心とするアプローチが重要 (process-oriented)
- 即興性/遊び性に基づいて、人々と会って交流することが大事。
- 積極的かつ能動的な参加をして、例えば積極的に何かに介入したり、表現をしたり、討論を行い、あるいはお互いの意見において反対をしたりということも重要。
- そのためには、生徒の自発性がとても重要。出会いと体験と表現が自分のものだと思う当事者意識 (ownership) が身につくでしょう。ですので、例えばドラマやシアターを行う人、そこに参加する人が相互協力して、学んだり習ったりすることが重要。
- 最近のトレンドとしては、単なる体験と共有にとどまらない、「個人的、社会的に変化を目指す」ということがトレンドだと思う。

127

教育演劇の連続体(continuum)概念



教育演劇の場合は、初級、中級、上級というように段階的に上がっていくというのではなく、上図のように連続体として、相互的にやり取りを行いながら進めていくことが概念になっているという認識をしています。例えば、子どもたちが自然に遊んでいることが発展してドラマになる、そういう単純なものではないということです。

もちろん演出家の皆さんはよくご存知だとは思いますが。僕は、たまに演出をするときに求められる、子どもみたくによく遊ぶこともあったりするので、こういう循環的なものが演劇に求められるものの1つではないかと思っています。

- Drama
- 「過程」(process)の「どのように」(how)に焦点、
芸術様式の「なぜ」(why)に注目。
→教育的観点 Pedagogy 強調

- Theatre
- 「結果物」(product)の「どのように」(how)に焦点、
芸術様式の「何」(what)に注目
→実行 Practice 強調

ドラマとシアターをどういう概念として区分するのかというのを抜粋したものです。

Drama (ドラマ)は先ほど申し上げた、プロセスの中でHOWに焦点を当てるのが重要になります。そうすると自然に演劇という芸術様式をなぜ使わなきゃいけないのかというところに注目されることになると思います。結局、なぜという悩みはどんな形で悩むことが求められるのかという、教育的な観点のPedagogyを強調することになります。

その反面、Theatre (シアター)は過程が重要というものではありませんので、どのように結果を出していくのかという部分が焦点になります。そうすると、先ほどのドラマというカテゴリーとは異なっていて、演劇という芸術様式で何を作っていくのかということが重要になると思われます。シアターという部分では、どうやって上手に、どうやっていい結果を出すのかという、実行のPracticeを強調する部分になります。

- 교육연극 教育演劇 Drama Education
- 예술교육 藝術教育 Theatre Education

日本にもこういう概念があるかもしれませんが、韓国では「教育演劇」と「演劇教育」という概念が大きく2つあります。

海外ではどうやって分類するのかとなると、

- ・教育演劇と繋がる場所はドラマエデュケーション
- ・演劇教育との関わる部分はシアターエデュケーション

という分類になっております。先ほど教育演劇を傘の図で説明させていただいたんですけれども、ドラマだけ行うという概念ではありません。ここではシアターエデュケーションの概念と区別するように、こういう形を採っています。

■私がPRAXISを通して行った活動

PRAXIS, 「青い鯨の夢」 障害/非障害認識向上のためのTIE



ここからは、私がPRAXISを通して行った活動をご紹介します。私が韓国に帰国して初めて作り上げたものなんですけれども、TIEという概念で演劇を上演するという上で、討論を行ったり、問題をどうやって解決していくのかという点に着目して行いました。ご覧になっている写真は、演劇を上演した後に、俳優たちと観客とが討論をしたり、意見を交換する場面になります。

PRAXIS, 「青い鯨の夢」 障害/非障害認識向上のためのTIE



公演と討論を含めて、全体で約2時間程度。障がいを持っている学生が、それぞれのクラスに1人いる状況でした。そういう状況に置かれた場合、障がいを持つ学生とどうやって接していくのかということを真剣にこの場で討論し、取り組む状況になります。

PRAXIS、「青い鯨の夢」 障害/非障害認識向上のためのTIE



むしろ学生たちが、ここに座ったまま、先生たちから指示を受けたり、受けたままにするものではなくて、自分たちの今までの経験を生かして、作り上げるということがこちらです。

PRAXIS、「ナ・ビ・ヒョ・グァ」 青少年との「競争」に関するフォーラム劇



こちらは教育熱心というか、教育の競争が激しい国の中で、韓国もそうですが、青少年たちの悩みと選択する過程をアウグスト・ボワールが行った演劇、フォーラム・シアターの形で上演する作品を作りました。

PRAXIS、校内暴力予防TIE 「目を閉じた人？ 目を開けた人！」



韓国で一時、学校暴力、いじめというものが深刻な社会問題としてのスポットライトを浴びたことがあります。それで中学生たちを対象にして、このような状況をどうやったら予防ができるのか、防げるのかというところを、演劇も含めてTIEという形で表したものが『目を閉じた人？ 目を開けた人！』です。

131

PRAXIS、校内暴力予防TIE 「目を閉じた人？ 目を開けた人！」



下の写真は、2014年に今度は女子生徒の間で行われている、学校の暴力、いじめ問題に関するフォーラム演劇です。

**PRAXIS、「バタフライ効果2014」
女子生徒の学校暴力予防フォーラム演劇**



次の写真は、小学校のスペースを活用して、3日間のプロジェクトで表したものです。

**PRAXIS, "Owl project"
小学校空間を活用した演劇プロジェクト**



有名なアメリカン先住民が訪れていて、問題を解決したり、問題に取り組んでいくこと、向き合っていくことをテーマにしています。

これには演劇の専門家の参加のみならず、アメリカン先住民の部族として、先生たちも一緒に参加をしています。

次の写真は、私たちが行った演劇の1つとして、ご年配の方々と演劇を作り上げた、彼らの立場を取り込んだものです。

「PRAXIS、老人演劇プロジェクト」 年配の方々との芝居



「PRAXIS、老人演劇プロジェクト」 年配の方々との芝居

133



さまざまな経験をして来られた年配の方が、ご自身よりもっと大変な状況に置かれている年配の方々に披露したいということで、シルバータウンと療養所を訪問したものです。

PRAXIS、世代間育児戦争を扱ったフォーラム演劇

「お母さん、私三人目ができたよ」



年配の方と若者の世代の違いを表すもので、育児の大変な部分を扱ったフォーラム演劇となります。

PRAXIS、世代間育児戦争を扱ったフォーラム演劇

「お母さん、私三人目ができたよ」



黄色いTシャツを着て右側に座っているのが主人公なんですが、主人公の立場を代弁するために、観客が3人くらい舞台上がってきて、意見を言っている場面です。

次は、最も大変な作業の1つだった、アルコール中毒者の方々と一緒に行った演劇です。

PRAXIS, “ソウルの空の下で”
長屋住まいのアルコール依存症者たちとの市民演劇



次は、専門的俳優ではなく、一般の年配の方々と初めて作り上げたフォーラム演劇です。

PRAXIS, 「ちょっとペク女史を助けてください！」
年配の方々と一緒に作ったフォーラム演劇

135



**PRAXIS、「ちょっとペク女史を助けてください！」
年配の方々と一緒に作ったフォーラム演劇**



目標の1つとして、さまざまな世代が集まっている客席の方々と一緒に、年配の方の問題だったり、悩みだったり、葛藤などを多様な観点から討論するものです。

136

**PRAXIS, “ソウルの空の下で”
長屋住まいのアルコール依存症者たちとの市民演劇**



先ほどのアルコール中毒者の方々と一緒に作業を行っているんですけども、もうすでに初日、あるいは2日目ぐらいの練習の時の雰囲気となります。

PRAXIS、「ホームレスと共にする市民演劇」



アルコール中毒者の方々との作業は、とても疲れたり、大変な部分があったんですが、次に実際のホームレスの方と一緒に演劇をしてみようというテーマで参加した演劇です。

PRAXIS、「ホームレスと共にする市民演劇」

137



キャスティングの際には、実際ソウル駅周辺で暮らしていらっしゃるホームレスの方々、あるいは、そういう方がよく集まる憩いの場で、ホームレスの方々を集めて、最後まで作り上げた演劇がこちらです。

PRAXIS、ホームレス劇団プロジェクト 「梨門洞の人々」



約2、3年をかけてホームレスの方々の劇団を作るところまで私たちが参加しました。

PRAXIS、ホームレス劇団プロジェクト 「梨門洞の人々」



PRAXIS、ホームレス劇団「鉛筆箱」



ホームレスの劇団を作ったんですが、今投影している写真で観客と話している俳優の方、この方は実は脱北者、北朝鮮から来た方で、北朝鮮で実際に演劇をしていた方です。



こちらは働いている女性やお母さんが、仕事と家庭の両立をしているところを、演劇として盛り込んで作り上げたフォーラム演劇です。

教師・演劇講師 Team Teaching プロジェクト

- ・2020年～2022年 事業総括
- ・京畿道内の小学校教師&演劇講師協力教育演劇授業
- ・教師と演劇講師と一緒に教科連携演劇授業の企画&実行
- ・3年間で74校、330クラス、計8500人の生徒

こちらは過去3年間、2020年から2022年まで、教師と演劇を行っている方々たちがチームを組んで、市が総括をしていました。教師と演劇講師の方々が一緒に数学、社会、国語を連携しながら作り上げたものになります。



こちらは、教師と演劇講師と一緒に演劇を作っているところです。

初期老年(Young Old)演劇プロジェクト(2023年11月)



こちらは私が直近で行ったプロジェクトになりますが、初期老年、お年寄りというよりはヤングオールドという表現を使ったんですけども、その方々と演劇プロジェクトを行ったものです。

初期老年 (Young Old) 演劇プロジェクト (2023年11月)

- ・高齢化時代初期の高齢者のための芸術教育
- ・仁川地域の参加者60歳～70代前半
- ・計8週間。週1回のプログラム
- ・コース中心、参加者中心、即興ベースの芸術教育へのアクセス
- ・Community Theatre , Verbatim Theatre
- ・参加者の話をオムニバス演劇で構成
- ・事業の持続可能性と拡散可能性のためのプロジェクト

60代から70代前半、まだ若いですが、世間的には老人と分類される方々を対象に行ったプロジェクトです。

※注 Community Theatre (コミュニティーシアター) は、特定の地域に住む人々が参加する、またはそのグループのために作成された演劇の形式。市民劇など。
Verbatim Theatre (逐語劇) は、実際の人々の話した言葉に基づいたドキュメンタリー演劇の形式です。





こちらは8週間の間、私たちが行っているプロジェクトや、今まで行っていたものを公演当日にロビーに展示しているものになります。

私が夢見る芸術教育

芸術は特別な人たちだけのものではなく、
私のような平凡な人たちにも享受できるもの

私は教育演劇を基盤としてさまざまな演劇を作り上げたり、参加したりするんですけども、私が目指しているのはご覧の通り、芸術は特別な人たちで行うものではなくて、私たちのような一般的な人々も行うことができるということです。

「芸術が私の日常になって、私の日常がまた芸術に変わる」と
いうことが、私の人生においてやっていこうと思っていることです。

一旦ここで第一部を終了させていただきたいと思います。

■質問「TIE」と「フォーラムシアター」の違いは何か？

○**柏木** ありがとうございます。カムサハムニダ。休憩に入る前に1つだけ質問が届いているので、この質問にだけ答えていただいて、休憩に入りたいと思います。

質問の内容です。「フォーラム演劇」と今回記されていましたが、これはアウグスト・ポアールのフォーラムシアターと多分同じことだと思います。「TIE」と「フォーラムシアター」の違いはなんなのか解明しておきたいなと思います。

○**キム** まずTIEですが1960年代のイギリスで発祥しまして、学生たちを対象に社会のイシューや、時事の問題などを取り扱う教育プログラムです。当時人気があったもので、私たちが今使っている演劇の手法や技法などが多くあります。ポアールのフォーラム演劇に関しては、1980年代にTIEが衰退期になったときに、こちらの方が主流になりました。

○**柏木** ありがとうございます。じゃあ、もうちょっと聞いていいですか。フォーラムシアターは多分私たちもほぼ分かっているのですが、イギリスで「TIE」というのが、シアターインエデュケーションのことなのかどうかということが1つと、イギリスで衰退していたものをあえてキムさんがやったということなんでしょうか。

○**キム** TIEはシアターインエデュケーションで合っています。イギリスで1960年代に出発して、今はTIEという概念はほとんどなくなっておりますが、特にイギリス、アメリカ、オーストラリア、香港などでは教育演劇の社会的な部分で拡張された、アプライドシアターという概念が流行っております。

それはいきなり出てきた概念ではなくて、TIEを基盤にして出てきたもの、そこにポアールの理論と手法がかけ加わって影響を受けたと理解しています。なので、ある専門家たちは、先ほどご紹介したアプライドシアターという概念を傘の概念として活用することもあります。

○**柏木** わかりました。ありがとうございます。休憩を挟んでいきたいと思います。チャットにも質問ありがとうございます。19時40分まで10分間の休憩をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

< 休憩 >

第2部

■ ソウル教育大学の修士課程について

○キム 第2部では、私が勤務しているソウル教育大学の修士課程についてご説明をさせていただきますと思います。よろしくお願いします。

(1) 10人から始めて300人に

- ・ 2007年 韓国で唯一の修士学位専攻が設置された
- ・ 2008年 第1期の専攻生10人が入学
- ・ 2024年3月 第17期生として16人が入学予定
- ・ 16年間で計309人が入学、166人の修士を輩出（学位論文必須）

最近、韓国の修士課程の中では、学位論文を必須としない、要求しないというところも増えていますが、特に教育大学では、多くのところなくなっている状況ではあります。ただ、私たちのところは現在、ソウル教育大学の中で学位論文を唯一書かなきゃいけないところですので、現在、志願する学生たちが少なくなりつつあります。



昨年1月に私たちが学術セミナーを行った写真になります。

(2) 大学院生の構成

初期にはほとんどが小学校教師で構成

2017年から構成多角化（入学資格開放）

→小学校教師、中学校教師、演劇人、芸術講師、特殊教師、保健教師、
幼児教師、カウンセラーなど、様々な背景の大学院生で構成。

日本も同じような、世界で数少ない教育大学のシステムを持っている大学院だと思っ
てみても、小学校の教師がほとんどでした。

2017年度からは小学校の教師でなくとも入れるようになりましたので、そこから生徒
の構成がさまざまな形になっております。ご覧のように小学校の教師のみならず、中学
校の講師、演劇をされている方々、芸術講師、特殊講師、保健教師などの、さまざま
背景を持っている方々で大学院生が構成されています。

ここでいう特殊教師というのは、障がいを持っている人が通う特殊学校を指します。
このようなさまざまな背景を持っている方々がいらっしゃるメリットは、それぞれの専
門性と交流することができて、必要に応じて協力し合うこともできるということですよ。

145

例えば、論文を作成するためには授業をしなければいけません、演劇をしている方々
は、授業を行うチャンスは少なく限られており、その場合、教師の方々が自分のクラス
を1コマ貸してあげて、演劇をする方々にチャンスを与えたり、あるいは、教師の方々
が授業をするときに負担に感じる場合、演劇する方々が一緒にやって助けるというこ
ともあります。

それに加えて、卒業生たちの中には、教師と演劇をやっている方が、協同作業として
プロジェクトを行っていたり、劇団を作り上げてそこから活動をするケースもあります
ので、さまざまな人が集まることによる、相乗効果は強いと私は信じています。

(3) 教育演劇専攻の主な特性

- ・「人」を重視する伝統
- ・大学院生が家族のように親密で愉快的、「ユニーク」な専門分野
- ・様々なイベントや活動、先輩・後輩たちの参加と愛情に満ちた支持



新入生歓迎会および オリエンテーション



人数が増えるのは、新入生たちのみならず、大学生と卒業生もみんな一緒に集まっているので多く見えます。

146



演劇治療 (Drama Therapy) 特別ワークショップ



毎年、特別なイベントを行おうと私は思っていますが、その中で、演劇を通じた演劇治療というのがこちらの写真になります。

■ニューヨーク研修

教育演劇専攻ニューヨーク研修



New York University訪問特講



今まで3回ほどニューヨーク大学に訪問をして、演劇の研修を行いました。教育演劇学科というところへ訪問して、特別に授業を受けたりもしました。

147

教育演劇専攻ニューヨーク研修



リンカーンセンター芸術教育院
Lincoln Center, Arts Education



有名なリンカーンセンターの芸術教育院を訪問して、芸術教育に関する意見交流の機会を持ちました。

■ホームカミングデー

毎年5月15日、韓国で言う「師匠の日」という日があるんですけども、そこでイベントをするのが今までの伝統でした。しかし、10年前からはそういったものを廃止して、卒業生たちが「ホームカミングデー」を設けて、後輩たちと一緒に楽しむという会を設けました。



専攻 ホームカミングデー(Homecoming Day)



この写真は、昨年行ったホームカミングデーです。ご覧になっている演劇は、学位論文というものに頭をいつも抱えていたり悩みを持っているところを表した部分になります。



ご覧のように多くの方がいますが、大学生が半分、卒業生が半分で、教育演劇について研究したり交流するところです。



TIE (Theatre in Education)
フォーラム演劇(Forum Theatre)発表



講義の中に、TIEと、フォーラム演劇を発表するということがあり、発表の公演当日の場面になります。左側の写真は、YouTubeが最近子どもたちに悪影響を及ぼすという部分を伝達することをテーマにした演劇となります。右の写真は、職場内のパワハラ問題に関して、どういう形で問題を掲げるのか、そして観客の手伝い、観客からのサポートをもらって、どうやってその問題を解決していくのかというところを表したものです。



こちらは卒業生からの差し入れです。毎回発表があるたびに、卒業生からお水だったり果物だったり、チョコレートだったり、応援するという気持ちで差し入れをくれます。



教育演劇専攻生の
卒業式



5学期の、5セメスターを修了すると卒業に繋がります。

(4) 教育演劇専攻教授陣

- ・設立当初から教育演劇を先行した専任教授の拡充努力
- ・2011年「全国教育大学初の大学院専任教授 キム・ビョンジュ任用」
- ・2023年、教育演劇専攻者チャン・ヨンジュ教授任用
- ・現在、教育演劇専攻の専任教授陣
→キム・ビョンジュ、チャン・ヨンジュ、ペク・ジェヨン（音楽教育）、オ・ボムネ（教育学）、コ・ホンギョ（美術教育）

日本でも教育大学のシステムがあり、皆さんはよくご存知だとは思いますが、学部
の資格がなければ、こちらに進学することは難しいです。2011年には、初めて私が教授と
して任命されましたが、大学院の出身としては初めて任命されたケースになります。

時が経って、2023年には私たちの学部にもう1人が任命されました。現在、教育演劇
の専門としては、チャン教授と私、2人で教育演劇の教授をしております。そして、音
楽教育を専門とする方、教育学を専門とする方、美術教育を専門とする方の3名と合わ
せて、全部で5名での教授陣となります、

151

(5) 教育演劇専攻教授陣

- ・5学期、30単位+修士学位論文必須
- ・専攻必須科目：「教育演劇の理解」（1学期）
- ・「教育演劇研究方法論」（2学期）
- ・専攻選択科目：多様な教育演劇実習および理論調和
- ・1、2学期（基礎）：教育演劇基礎理論および実習
- ・3、4学期（深化）：様々な細胞領域実習およびセミナー
- ・5学期（拡張）：関連分野への拡張

ソウル教育大学の修士課程に関しては、教育演劇の課程において、5つの学期と30単
位を修了しなければいけません。必須科目としては、今年から変更になりまして、3つ
から2つになりました。1学期目には教育演劇の理解、2学期目には教育演劇研究方法論
になります。その他の専門の選択科目としては、さまざまな実習と理論をバランスよく
取ることを目指しております。

1学期、2学期は、教育演劇の基礎理論と実習を聞くという時期になりまして、3学期

と4学期は、さまざまな細部の領域を経て、実習とセミナーを行う進化した学習の時期となります。5学期目は今まで習った、収穫したものを他の関連分野、他の領域に拡張していくことにフォーカスしております。

(5) 教育演劇専攻カリキュラム

- ・ 1学期：教育演劇の理解 (Understanding Drama Education) - 必須
教室ドラマ実習 (Drama in Education)
演劇遊び実習 (Creative Drama)
- ・ 2学期：教育演劇研究方法論 (Research methodology) - 必須
TIE (Theatre in Education workshop)
児童・青少年演劇演出 (Directing Theatre for Young People)

専門のカリキュラム、全ての科目を全部盛り込ことはできなかったのですが、重要な部分をここに取り入れています。1学期は必須科目として、ドラマと関連した2つの中の1つを受講するようにしています。2学期には演劇研究方法論に関する必須科目1つと、シアター関連の2つの中の1つを受講することになっております。

(5) 教育演劇専攻カリキュラム

3学期 (選択2) :

- ・ 課程ドラマ実習A (Process Drama Workshop A)
- ・ ボアールのフォーラム演劇 (Boal's Theatre of the Oppressed)
- ・ ドラマ授業設計 (Planning Drama Lesson)
- ・ 教育哲学と演劇理論
(Educational Philosophy & Drama Theories)

4学期 (選択2) :

- ・ 課程ドラマ実習B (Process Drama Workshop B)
- ・ 市民演劇科ティーチングアーティスト
(Applied Theatre & Teaching artist)
- ・ ドラマ授業指導実習 (Teaching Drama Lesson)
- ・ 教育演劇と伝統演劇 (Traditional Korean performance)
- ・ 学問的散文 (Academic Writing)
- ・ 教育演劇教育課程論 (Drama Education Curriculum)

3学期からは2つの選択科目を選択できます。ご覧の通り、ドラマの実習や、アウグスト・ボアールのフォーラム演劇、ドラマの授業設計、教育哲学と演劇理論などの受講が可能です。4学期にはもっと選択の幅が広くなり、理論の授業を聞くことも、実習も含まれます。学問的な作文のことやアプライドシアターのようなことも受講が可能です。

(5) 教育演劇専攻カリキュラム

5学期（選択2）：

- ・体と動き（Body and Movement）
- ・演劇治療実習（Drama therapy Workshop）
- ・教育演劇と創意性（Drama Education Creativity）
- ・テーマ別セミナー（Drama and Arts Education Seminar）

最後の5学期目には、セミナーと3つの中から選択をするんですけども、体を使う授業と、演劇治療を実習する授業もありまして、クリエイティブな相違性を身につける授業もあります。

(6) 教育演劇学位論文

主題

- ・教科連携
- ・創体および汎教科
- ・教師の役割 / アイデンティティー
- ・ドラマ理論
- ・演劇作り / 演劇指導
- ・心理 / 空間 / 評価

研究方法論

- 量的研究（Quantitative Research）
- 質的研究（Qualitative Research）
- 文献研究（theories & Analysis）
- 実行研究（Action Research）
- ケーススタディ（Case Study）
- 実践基盤研究
（Practice-Based Research）

私たちの研究のテーマとよく出てくる学位論文に関して、テーマ・主題と研究方法論という2つで分類してみました。

主題としては、教師の方が多くいらっしゃるのので、〈国語〉、〈数学〉、〈社会〉などの教科科目と連携してドラマを作るというのが多くあります。

しかし最近のトレンドとしては、こういう教科以外のクリエイティブな体験を重視するということも見られまして、〈安全教育〉、〈保健教育〉、〈人権教育〉、〈共同体教育〉のようなトレンドも論文としてよく見られます。

そして、「教育演劇に携わっている教師や、専門的な芸術家の方々が置かれている立場を研究する」論文も増えています。その他の部分でも、ドラマの理論の部分に、「演劇を作る」、「演劇を指導する」というものもあります。

研究方法論で一番多く見られるのは、〈実践研究〉と〈事例研究〉になります。ケーススタディですね。教育演劇の部分では、実践基盤研究というところが、実際のケースを実践したりという実際の事例がよく参考にされる部分があるので、プラクティスベースと実践基盤研究が多くあります。

(7) 教育演劇専攻生の卒業後の活動

- ・教師／芸術講師／講師の研究職
- ・教育コンテンツ／教育資料／オンライン資料の開発
- ・教科書の執筆／自分の著書の出版
- ・演劇関係の学会および教師の研究会の活動
- ・芸術教育家活動
- ・専門劇団運営／国内外芸術教育プロジェクト企画
- ・国内および海外の博士課程に進学

教育演劇の修士学位を修了した人は、どういう進路に進むのかというのがこちらです。昨日レクチャーしていただいたチョン・ヒョジョンさんも、私たちの卒業生でして、今は理事として活動しています。

教師ではない演劇人たちは、さまざまな場面で演劇の活動をしています。自分の劇団を運営したり、さまざまな芸術教育のプロジェクトを企画したり遂行するケースが多くあります。もっと学問を深めたいという方々は、韓国国内で博士課程に進学をしたり、アメリカだったりカナダなどに博士課程の進学をしている方もいらっしゃいます。

専攻卒業生
教師と芸術家の協力ドラマ授業



私が3年間行った、教師と芸術家が協力して行ったドラマの授業になります。教師の方も卒業生だというケースもあります。



教師向けドラマ研修

155



教師たちを対象にしてドラマの研修を行ったりもします。



ベトナムODAプロジェクト



芸術家である卒業生の中には、いろいろなプロジェクトを構成する人もいます。そうした活動の中で、3年間 ベトナムの山奥の学校にいて、写真のような活動を行ったりもしました。



山奥の町ですが、とても美しい風景です。

今まで私たちの専門領域に関しての、たくさんの良い話をメインに話しましたが、すべてうまくいってるわけではないという部分もありますので、ご希望がありましたら、その部分に関して、私が知ってる範囲内で今後お話ししたいと思います。ありがとうございます。

○**柏木** 貴重なお話ありがとうございます。少し休憩を挟みます。

< 休憩 >

■ 質疑応答

○**柏木** では質疑応答の時間にします。ぜひこの機会に直接お話を聞いてください。

○**参加者1** とても幅広い体系的なことをやられてるようで、感心いたしました。私の質問は、よく訊かれると思うんですが、内容がマイノリティーの問題であれ、普通の教養であれ、演劇を通して教えることでどのような効果があったりするのでしょうか。実は私は演劇をやっていますが、中学校で英語の先生をやっています。でも、そのときは演劇と分けてやっています。一緒にやれたらいいと思うのですが、それは難しいだろうといつも思います。そういう観点からもちょっと質問をしてみました。よろしく願います。

○**キム** まず、難しいことをされている先生に、励ましと応援の言葉を送らせてください。

演劇をすると何が良くなるのか？という質問をよく訊かれる場面がありますが、私自身は1つ2つに絞らないことをあえて考えております。

理由としては、いくつかのことに絞って演劇のことを話した場合、その効果がもし無くなった場合、演劇の必要性自体も無くなるのではないかという懸念を持つからです。

おっしゃっている情報の中で、言語と演劇が一番関連があり、演劇こそ表現できるツールだと思っています。言語という媒介を通して、考え方だったり、感情だったり、身体的なコミュニケーションだったりというところが、演劇と繋げられることができるかなと思っています。多くの教科の中で、欧米では一番英語に関連する部分が多くなっていまして、韓国では国語、日本語が一番多く関連していると認識します。

しかし、最も重要だと思っているのは、教育というのは知識や技術の習得だけではなく、「もっと良い人、もっと考える人、もっと自分でオーナーシップを持って、主導的に考えて行動をする人、人々とコミュニケーションをとって協力を行う人になること」が教育の最も根本的な目指している部分ではないかと思っています。

先生（参加者1）がいろんな角度からトライすることで、そのトライが複数回蓄積されて、生徒たちには楽しい、幸せな授業だったという記憶に残って、子どもたちが将来いい人になることに繋がるのではないのでしょうか。応援します。

○**柏木** ありがとうございます。他、直接ご質問したい方などいらっしゃいますか。どうでしょうか。

○**参加者1** 1つだけ、補足ではないんですけど、ちょっとよろしいですか。

○**柏木** はい、どうぞ。

○**参加者1** 多分とても素晴らしいことをやられてるようで、今日聞いた皆さんも間近で見たり経験したいと誰もが思ったと思うんですが、例えば僕らみたいな外国人の人が、何か先生のワークショップに参加したりとか、あるいは発表を見れたりとか、そういう機会がどんな感じに持てたりするものかという情報あったら教えていただけますか。

○**柏木** わかりました。韓国に行ったりということですか？

○**参加者1** ああ、そうです。もちろん韓国に行ったり、外国行ったり、ニューヨークでとかっていうことです。英語で参加できるのかとか、プラクティカルの話ですけども。

○**キム** ここ数年間はコロナのせいで、こういったコミュニケーションは少なくなって、オンラインで行うことが多かったのですが、私は相対的に、私が行っているものが、日本ではそこまで知られてはいないのではないかとも思っております。もっとお互いの関心、興味を持って、日本の演出者協会や、こういうコミュニケーションの場がとても大事だと思っております。

3、4年前に、私たちの大学院に日本から学生が来ていたことがありました。1年の交換留学生のつもりでその学生は来たんですけども、来てすぐに「ここで卒業したい」と言われました。でその学生に「なぜ？」と理由を聞くと、「日本ではこういったプロ

グラム、勉強をする機関や学校がそこまで多くないから」とその学生は答えました。彼は東京学芸大学の学生だったので、その大学を卒業するように誘導をしました。

その子自体は韓国語が流暢ではなかったんですけども、とても頑張って授業に臨んでいまして、周りの同僚ともいい関係を持ってコミュニケーションをたくさん取って、言語の壁を演劇というツールで乗り越えたとは思っておりました。

ですので、これからも興味をたくさん持っていただいて、今日のような交流の機会、コミュニケーションの機会が、もっと増えればいいと思っております。

○参加者1 ありがとうございます。日本演出者協会がきっと企画して、先生を日本に呼ぶと思います。

○柏木 ありがとうございます。ぜひ前向きに考えていけたらいいなと思っております。他、どうでしょうか。あ、2名来ました。順番に行きましょうか。参加者2さんがちょっと早かったので、参加者2さんから。

○参加者2 はい、よろしく申し上げます。評価ということで、まずプロジェクトの評価ですね。前半のお話の中に、つまり教育演劇の特徴として、遊戯性とか、プロセス重視とか、自発性を大事にする、共同性、協調性、協力することを大事にするっていうような性格をあげられてたと思います。

だから活動の中で、そういう条件が満たされてるかっていうことが1つプロジェクトの評価のポイントになってくると思うんですが、一番最後の項目だけ、個人的な変化と社会的な変化という文言がありました。つまり、それまでの項目が全部その活動の性格であったのに対して、個人的、社会的な参加者の変容を期待するというのが最後の一文だったわけなんです。

だからそれは、いわゆる希望的な方向目標としてあるんだろうと思うんですが、それぞれこのプロジェクトを評価して、自己評価をして、より良いものに変えていったりするための視点っていうのはあるんでしょうか。その中に、個人的な変化とか社会的変化が参加者に見られたから、評価のポイントっていうのがあるのかなっていうのが1つ。プロジェクトの評価としての質問なんですけど。

○**柏木** わかりました。ちょっとまとめると、プロジェクトの評価として個人的変化、社会的変化っていうのを、何を持って評価するんでしょうかっていう質問なんですか。

○**参加者2** まとめて言うとそういうことなんですけど、それは目指すところの、規模的な目標なのかもしれませんし、それを具体的にちゃんと捉えられた感触と言いますか、そういう感触はあるかなと思いました。

○**キム** 評価はいつも頭を抱える、とっても難しい主題ではあります。私が先ほど資料に書いた部分をご理解いただいていると思いますが、個人的変化、社会的変化を目指すという部分になります。

韓国の場合は、こういったプロジェクトを行う際に、支援をもらう、国からのサポートをもらうときがたくさんありますが、公共の部分に対して、評価をどう行うのかというところが、いつも課題となっている部分ではあります。

もちろんですが、演劇を通して何かの変化が起こったのか、変化があったのかというのは、今日ですぐに結果が分かる、変化の結果が分かるという部分もありますが、ほとんどの部分は長い時間の間に変化が徐々に出てくることが多いのではないのでしょうか。

なので私は可能であれば、できる限りどんな結果を出すというなどの要求、提案は非常に警戒しております。「私たちに何ができるのか、何をもっと良くすることができるのか」というところに着目しています。

日本のことはまだ私がよく把握できてない部分があるんですけども、欧米や、韓国に於いては、公共の支援によって行われているものは、すぐにどんな結果を出したのかによって、極端なケースではあるんですけども、翌年にはそのプロジェクトがなくなったということもあります。

特にこういう演劇のような芸術の作業を行うときに関してですが、なぜそうなのかということを考えてみると、評価に関しては誰が評価するか、評価の根拠は何なのか、なぜその評価は説得力を持つのかという部分に応じて、演劇ではなかなか合意とか立証を得ることが難しいという見解があります。

私が10数年前からものすごく気を付けている部分は、行政の方々や、機関の方々に、あなたたちの言語、あなたたちの言葉だけではなく、私たちが今やっている言語、言葉を理解してもらうように、逆の問いを行っている部分もあります。そして10年ほど期間が経ていくと、このような作業を行っている部分、そしてプロジェクトの特性を理解してくれる方々がだんだん増えてきました。

なので点数で評価したり数値で評価するなどの、短期的な部分は私は謹んでおります。例えば、事例やエピソードなどで、何か話があった部分などにもっとフォーカスをおいて、量ではなくて質、そして定量的な部分ではなくて定性的な根拠に基づいて、彼らを説得することを目指しております。これが芸術教育においてのとても重要なポイントではないかと思っております。

○**参加者2** ありがとうございます。大変よくわかりました。学生の評価でも質問させていただいてるんですけども、まさしくそこにも繋がっていくんだろうなと理解いたしました。ありがとうございます。

○**柏木** ありがとうございます。時間が迫ってきたんですが、参加者3さん、どうですか。短めで。

○**参加者3** 大丈夫です。“アニョハセヨ。マンナソ パンガプスムニダ。”(こんにちは。お会いできて嬉しいです)これから日本語です。今、私は石川県という、地震の災害に遭った場所に住んでるんですね。これから心のケアが必要だと言われておりますが、私は演劇教育を、20年ほど勉強していて、高校の演劇科の先生も昨年までしております、これから能登の、石川の奥の地域に回ろうと思っております。韓国でも色々な事件がありましたよね。そういう事件の後にできそうな何かそういうプログラムがありましたら教えてください。

○**キム** はい。まず、私は個人的に富山というところに行ったことがあります。今回の震災に関して心よりお見舞い申し上げます。とても残念ではございますが、私たちが生きていくこの社会の中では、自然災害や、事故で、弱者が必ず生じてしまうので、彼らをサポートし、ケアする心を持っていらっしゃるの、とても重要だと思っております。

私がニューヨークで勉強と仕事をしている時に、ちょうどアメリカの9.11の事件がありました。ただ9.11が起きた後に学生たちと会ったり、プログラムとして作り上げたりするまでには、そうとうの長い時間が必要でした。なぜかという、とても大きな事故の場合は、被害者の方々にトラウマが残ってしまうということもありますので、専門的

な治療を行っている方ではない場合は、かえって受けた被害のことや、トラウマに刺激する場面も出てくるかもしれない可能性があったからです。

私が今、石川の状況や、貴方の専門分野の細かいところまでは存じ上げておりませんが、私が唯一考えられるのは、そういった被害を受けた学生たちが、安全に集まって、心身ともに楽な状態になって、コミュニケーションを取る場を作ってあげるのが、今は最善だとは思っています。

ときには演劇や芸術を、必ずしも真正面から取り扱わなくても、迂回して私たちがサポートできることがあると思います。ですので安全、心身の安定、楽な部分、そして楽しい話をしながら、コミュニケーションを取りながら、不安なことを忘れることができることが大事だと思います。

そういうことができる参加者3様と会う時間がとても楽しい、とても気が楽だということから、徐々に積み上げていくことが大事だと思っています。こういうことは一歩間違えると危険に繋がるかもしれないので、慎重な取り組みが必要だと思います。

○**参加者3** ありがとうございます。“チョンチョンニ”って、言っていたので、ゆっくりと、慎重におやりなさいってことだと思いました。（“チョンチョンニ”は「ゆっくりと」）安心、安全である、それから自らが選び取れる活動である。色々大変だとは思いますが、多分長期にはなりますけど、1校にずっと回るわけではなくて、たくさんさんのところに、1回ずつぐらいは回りたいなと思っています。長期でやれば良いとは思いますが、ちょっとそれが難しいので、たくさん、たくさん、たくさん学校があるので、時間はかかるとは思いますけど頑張ろうと思います。ありがとうございます。

○**キム** とても応援しています。そして、彼らに少しだけでも不安や悲しみなどを忘れることを提供できれば、意味があると思います。

○**柏木** 参加者3さん、ありがとうございます。カムサハムニダ。

では時間でございます。本日は本当にありがとうございました。またお会いできるのを楽しみにしております。